



Dinosaur Topics



オヘアサイトで発見されたティプロドクス類「ドーリー」

2022年2月10日、アメリカモンタナ州のグレートプレーンズ恐竜博物館のキャリー・ウッドルフ博士が英科学雑誌サイエンティフィック・リポートに恐竜の化石に呼吸器感染症と見られる痕跡を発見したと発表しました。これは世界初の発見でした。

この病気の痕跡が見つかったのは、ジュラ紀の草食恐竜ティプロドクスのなかまの頸の骨の化石。2012年にロッキー博物館と実施した連携事業（熊本県地域づくり夢チャレンジ補助金）の一環として、御船町恐竜博物館でクリーニングされた化石です。ロッキー博物館との連携によって世界的な発見に貢献することができました。

この恐竜化石には「ドーリー」というニックネームがつけられています。ドーリーのレプリカ標本は、常設展示室の入口に展示されています。これは、新館オープン記念として、ロッキー博物館から贈られたものであり、国内ではここにしかない化石標本（レプリカ）です（写真）。ウッドルフ博士によると、ドーリーは若い未成熟の個体のため、詳しい種類はよくわからないとのこと。レプリカ標本をよく観察すると、頸の骨の側面のくぼみの中にゴツゴツとしたこぶが見えます（矢印）。これが、感染症による病変と考えられているのです。



リビングストーン発掘現場。



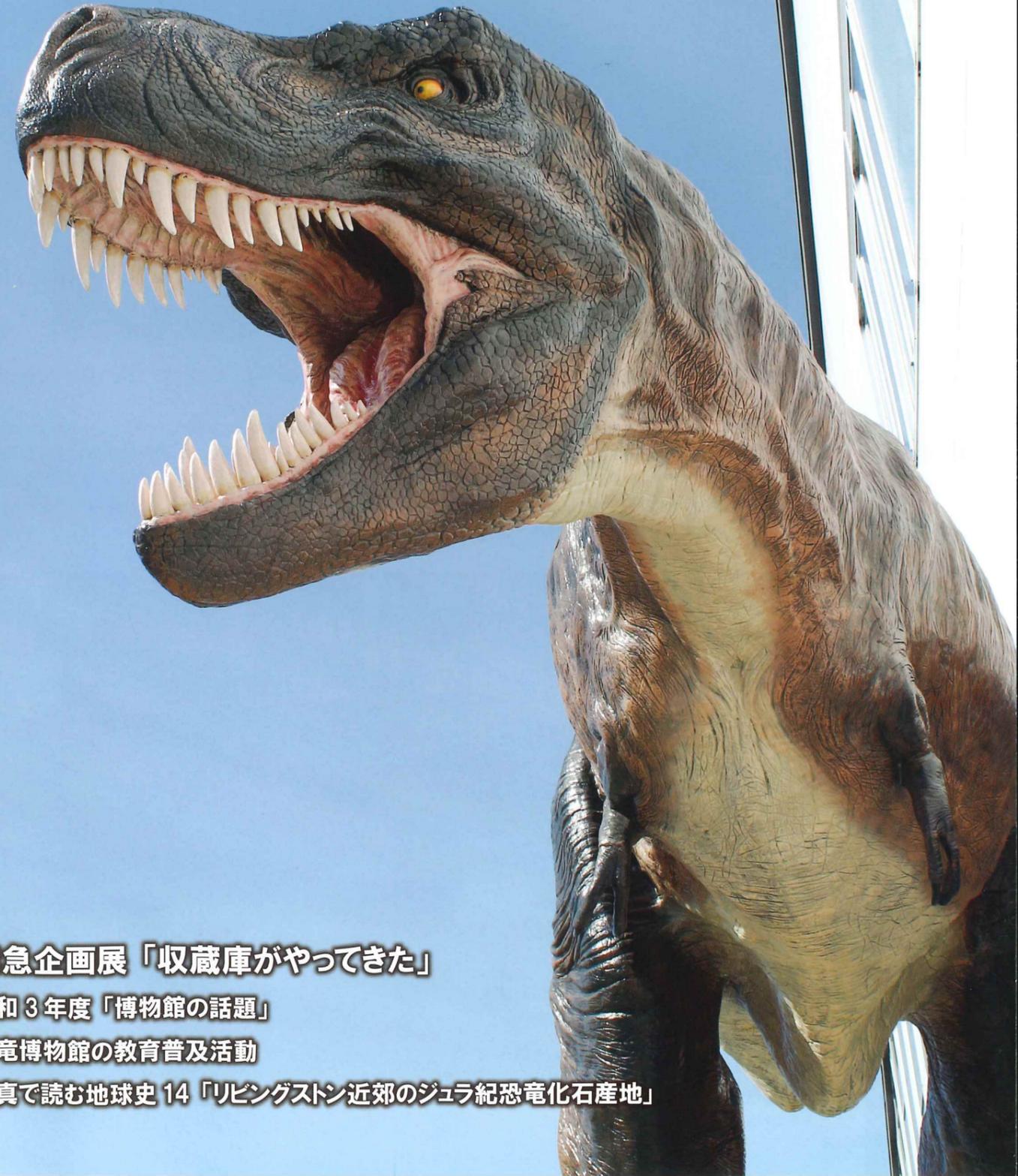
キャリー・ウッドルフ博士。

緊急企画展「収蔵庫がやってきた」

令和3年度「博物館の話題」

恐竜博物館の教育普及活動

写真で読む地球史 14 「リビングストーン近郊のジュラ紀恐竜化石産地」



1 2021年春期企画展「恐竜博物館のコレクション」展

開催を予定していた春期特別展「ぶっとんでいきもの」展は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったため、代替企画として「恐竜博物館のコレクション」展を開催しました。会期は4月1日から5月9日までの予定でしたが、感染拡大によって4月24日から臨時休館となってしまいました。



コレクション展。



コレクション展ティラノサウルスの設置。

特別展・企画展の開催はチームプレイ・・・

企画展は博物館職員の手作り。学芸員が展示プランを考え、コレクションの担当者が展示する化石を棚から取り出します。資料技師や調査員は、化石を組み立てたりならべたりします。グラフィックデザイナーは、パネルやポスターを制作します。学習指導員は学芸員とともに、展示を使った学習活動を考えます。そして、事業管理系の職員は、広報や機材の手配などを行い、開幕後の会場運営の準備を行います。

この企画展は「博物館のコレクション」にフォーカスしています。化石の解説だけでなく、そのコレクションの背景にある物語やコレクションを守る日々の仕事も紹介します。コレクションを未来に残し、伝える活動は、博物館活動の原点です。

2 新型コロナ感染症対策—施設整備—

新型コロナウイルス感染症の世界的流行が始まって2年が経過しました。この間日常の感染対策として非接触を実現する「デジタル化」が進んできました。以前のような対面形式での利用に制限が設けられた代わりに、遠隔や非接触でのサービスが充実してきたと言えます。

博物館では、公衆無線LANの提供が始まり、館内の解説システムであるキュラトリアルノートの閲覧を利用者各自のスマートフォンなどで見ていただきやすくなりました。紙幣や硬貨を介した接触機会を少なくするために、カード決済や電子マネー決済に対応しました。

もちろん、検温やアルコール消毒の設置、定期的な消毒作業など、基本的な感染対策も徹底しており、安心してご利用いただくことができる環境を提供できるよう努めています。

今年から利用者の集中を避けるために、時間制予約システムを導入しました。混雑状況を確認することができ、人混みを避けたい方にとっては便利です。ぜひ入館予約システムをご活用いただき、混雑解消にご協力いただければ幸いです。



キャッシュレス決済。



感染症対策。サーモグラフィーやアクリルのパーティションを設置。

3 広報連携事業

各機関や団体が有している媒体を活用して相互に広報を行うことは、新しい利用者層の開拓に有効です。御船町恐竜博物館では、町内の店舗等に割引券の設置をお願いし、設置店舗の情報を博物館のホームページで広報するという取り組みを進めています。町外から訪れる方が町内の店舗等にお立ち寄りいただく機会を増やし、町内回遊を促進することが狙いです。特にご来館前に設置店舗等にお立ち寄りいただくと、博物館の観覧料の割引が受けられ、お得です。



ふれあい広場（多目的センター）。

4 恐竜博物館de音楽療法

令和3年10月11日、博物館を活用した「健康寿命」増進プログラム開発のための学芸員研修会が当館で実施されました*。研修会のテーマは、音楽療法。恐竜と音楽に一体どんな関係があるのか、不思議ですね。これは、博物館や美術館の展示資料を観賞し、そこから湧いてきたイメージを音楽として実際に表現することで心身のリラックス効果を得ようではないか、という取り組みです。今回の研修では展示されている恐竜の骨格標本を観察した後に、各グループで2分程度の音楽を創作して恐竜の前で演奏しました。活動の前後で脈拍や血圧を測定したり、気分状態を評価する質問に答えたりすることで、心身のリラックス具合を測りました。

イギリスでは、心の療養のために医師が患者に対して博物館等を紹介する取り組み（社会的処方）が既に実施されています。高齢化社会や地球環境問題といった様々な社会課題の解決に向けて、博物館が貢献できることを探し、実践していく。これも、博物館の大切な役割のひとつなのです。



「博物館と社会的処方」について詳しく知りたい方は、こちらからどうぞ（ブログ）

*この研修会は、令和3年度文化庁「大学における文化芸術推進事業」の一環として、「2042年問題」解決に向けた社会資源を活用した「健康寿命」増進プログラム開発とリンクワーカー人材育成事業実行委員会（九州産業大学美術館ほか）の主催により開催されました。



研修会の様子。展示を見学し、イメージを膨らませる。



研修会の様子。自由に楽器を選んで、イメージを音で表現。

5 科研費指定研究機関になりました

御船町恐竜博物館は、令和3年12月7日付けで、文部科学大臣から科学研究費補助金取扱規程に規定する研究機関としての指定を受けました。九州内の博物館としては、北九州市立自然史・歴史博物館や大分県立歴史博物館等が指定を受けています。熊本県内の博物館としては初めて、大学や高専以外の研究機関としては、県内で7番目の指定研究機関です。

文部科学省科学研究費助成事業指定研究機関となるためには、研究体制や実績だけでなく、研究活動に関する規程の整備や助成金等を管理する体制も審査されます。

今後も、展示や教育活動の基礎となる、調査・研究活動の充実を図り、研究機関としての役割を果たしていくことになります。

科学研究費助成事業（科研費）ってなに？

科学研究費助成事業は、通称「科研費（かけんひ）」と呼ばれ、「学術研究」を格段に発展させることを目的とする「競争的研究費」です。研究者が相互に厳しく審査して採択を決める仕組みになっており、基礎から応用まで、独創的・先駆的な研究に対して助成が行われるようになっています。

科研費は、科学の発展の種をまき芽を育てる上で、大きな役割を果たしています。

（参考：日本学術振興会のウェブサイト）



オープンラボ。ここで調査・研究が進められている。

御船町恐竜博物館が取り組んでいる研究

①資料に関する専門的研究

恐竜博物館では、収集した資料から、生物の進化や地球環境の変化などを解き明かすことを目的として、古生物学や地質学分野の研究を行っています。

②資料の処理に関する技術的研究

化石を守るため、標本作製や修復・保存に関する技術開発等に取り組んでいます。

③博物館学（特に博物館教育）に関する研究

社会的課題の解決に寄与していけるよう、常に「博物館とは何か」を問い続けています。その中でも特に良い学習支援活動を実現できるよう、博物館教育の研究に力を入れています。

わくわく体験教室

新型コロナウイルス感染症の影響で、令和2年度と同様に事前予約制としたうえで、10:00～、13:00～、15:00～の3つのセッションを設定しました。参加者の皆様のご協力のもと、感染防止策をしっかり行ったうえで楽しく体験を行うことができました。

わくわく体験教室は、ものづくり体験をするだけではありません。毎回、太古の生き物や地球に関する10分程度のお話があります。お話のテーマは今のところ22種類をご用意しており、当日の体験に登場する大昔の生き物や地球・化石に関するトピックスについて楽しく学ぶことができます。和気あいあいとしたアットホームな雰囲気の中、気軽にスタッフに質問をしたり会話をしたりしながら、皆様に体験を楽しんでいただいています。



恐竜の貼り絵づくりの様子。

令和3年度の新規プログラムは「恐竜の時計づくり」。令和4年度は月1回のペースで全12種類のわくわく体験教室を実施する予定です。詳細は、年間行事チラシやホームページ等をご確認ください。皆様のご参加をお待ちしております。



恐竜の貼り絵～カレンダーバージョン～を作成中。



プチクリーニング体験にて本物の化石を取り出し中。

パレオプログラム

令和3年10月24日にパレオプログラム「化石のクリーニング」を実施しました。化石のクリーニングとは、岩石から化石を取り出すことです。今回は化石が入っているような新生代第四紀更新世の岩石を用意し、小型のハンマーとタガネ、そして砂袋を用いて、実際に化石のクリーニングを体験していただきました。

自宅でも化石のクリーニングを楽しんでほしいという思いから、砂袋づくりも併せて行いました。化石をクリーニングする際に岩石の下に砂袋を置くことで、岩石が動いたり机を傷つけたりするのを防ぐことができます。作り方はとっても簡単。材料は、キャンバス生地(100円均一ショップ等で入手できます)、布用ボンド、砂です。キャンバス生地を布用ボンドで袋状に成形し、砂を半分程度入れたら、袋の口を閉じて完成！砂ぼこりが生じるため、洗われた砂(乾燥珪砂など)を使うのがおすすめです。ケガに十分気をつけて、ご自宅でも化石のクリーニングを楽しんでください。



化石のクリーニング実施中。



令和3年度(2021/4/1～2022/3/31)の実績

行事名称	当初計画	実施回数	延べ参加人数(同伴含む)
わくわく体験教室 (恐竜をはじめとする古生物や、化石、鉱物など、地球科学に関連した工作を中心とする体験プログラムです。)	24回	15回	510名
パレオプログラム (化石標本の観察やレプリカ作成などをとおして、自ら考え気づきを得る、お部屋での学習が中心の学習プログラムです。)	12回	3回	30名
ジオスクール (主に野外にて、地層の観察や化石採集などを行います。大人の方にも人気のあるプログラムです。)	16回	8回	125名
オンラインイベント (遠隔でのジオセミナーおよびInstagramでのライブ配信等)	0回	6回	438名

内容	対応件数	延べ対応人数
館内学習 ※来館時ガイダンスを除く (体験プログラム/学習プログラム/講話)	60件	1821名
講師派遣 (出張体験教室/学校へのゲストティーチャーなど)	16件	342名
遠隔授業・オンライン講座 (遠隔でのゲストティーチャーなど)	11件	336名

臨時休館日
4/24～6/27, 8/7～9/30

中止となった行事

- わくわく体験教室
[4/24, 5/8, 5/22, 6/12, 6/26, 8/14, 8/28, 9/11, 9/25]
- パレオプログラム
[4/25, 5/23, 6/27, 8/22, 9/26, 12/26, 1/23, 2/27, 3/27]
- ジオスクール
[5/1, 5/2, 6/5, 7/3, 8/7, 8/13, 9/4, 1/8]

オンラインジオセミナー

当館では団体向けのオンライン学習は経験がありましたが、一般の方を対象としたオンラインイベントは未経験。記念すべき第1回目のオンラインイベントは、令和3年8月1、8、15日の3回にわたってお届けしたオンラインジオセミナー「イエローストーンの不思議」でした。全国から延べ383名の方にご参加いただきました。

オンライン会議システム Zoom を用いてモンタナ州(アメリカ)とオンラインでつながることで、イエローストーン国立公園から生中継で映像をお届けすることができました。セミナーのテーマは、イエローストーンの「化石の木」森「大渓谷」「間欠泉」の3つをご用意し、当日の天候や野生動物の動きに合わせて設定しました。解説は、イエローストーンを庭のように知りつくしているスティーブ・ブラウン氏^{※1}。流暢な日本語で非常にわかりやすく丁寧に、イエローストーン不思議を解説していただきました。「間欠泉」をテーマにした回では、生中継の最中にオールド・フェイスフル^{※2}の豪快な噴出も見ることができ、遠く離れた日本の地からイエローストーン自然とその広大さを実感できたのではないかと思います。



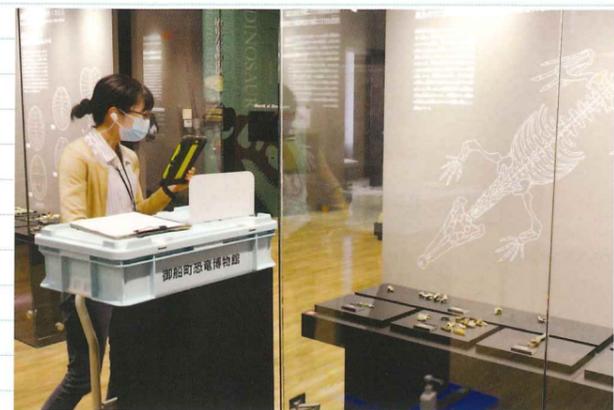
スティーブ・ブラウン氏とイベント主催者たち。

※1: アドベンチャーイエローストーン, Inc. (オンラインジオセミナー「イエローストーン不思議」共同主催) 所属。
 ※2: オールド・フェイスフル...間欠泉につけられた名称。かつては一定の間隔で噴出していたことから、1870年にウォッシュバーン探検隊によってオールド・フェイスフル (Faithful = 忠実な) と名づけられました。

オンラインゲストティーチャー

令和3年度は、学校の遠隔授業だけでなく、オンラインイベントにゲストティーチャーとしてお呼びいただく機会も増えました。オンラインイベントは距離の制約がないため、さまざまな場所にお住まいの方とお話することができます。先日お招きいただいたオンラインイベントのアンケート結果によると、アンケートに回答していただいた全ての方が熊本県外から接続されており、回答者全員が「御船町恐竜博物館に行ったことがない」ということでした。しかし、『オンラインイベントに参加して御船町恐竜博物館に行きたくなりましたか?』の問いには、「はい(行きたくなった)」が100%!

オンラインの良さ、実際に訪れることの良さ、この2つの良いところを存分に活かしながら、楽しく充実した博物館らしい学びを提供していけたらと考えています。



展示室でオンラインイベントの講師を務める富澤学芸員。